

戦後60年の時を経て今なお残る心の傷 「原爆の悲惨さや平和の尊さ伝えたい」

被爆者の池内さんに話を伺いました。
皆さんも戦後60年の今、平和について考えてみませんか。



西大寺地域原爆被爆者の会（岡山市西大寺地域と瀬戸内市の被爆者で構成・妹尾尾会長）副会長の池内保高さんは、昭和19年9月、広島晩16710部隊という通信部隊へ入隊。兵舎は市の中北部から少し離れた比治山のふもとにあった。昭和20年8月6日、原爆が投下された。戦闘機から糸のようなものが下が

つてきてピカッと光り、ドーンという大きな音がした。熱く部隊へ直撃弾が落ちたと思った。その日は特別暑い日で、午前中は就寝許可命令が出ており兵舎内で休んでいたため、原爆のせん光を直接受けなかつたわたしは無我夢中で兵舎の裏に出てみると、200人以上いる仲間の兵も10人くらいしか見当たらなかつた。窓辺にいた人は亡くなつた人が多いが、自分はあまりけがもしなかつた。

市の中心部から焼けただれた人が逃げて来られたが、助けようにも兵舎の類焼を守る命令を受けており、消しなかつた。その後亡くなられた人を裏の畑で何日も掛けて焼く仕事もした。

8月15日、終戦。茫然自失。後日、父親が憔悴しきりた姿で訪ねて来た。涙をボロボロ流して「生きとつたんなら言つことはない」と一言言つてすぐに帰つて行つた。被爆地を探し回つたのが原因かどうかは分からぬが、父は1年後52歳で他界した。

9月、家に帰れることにまで生きられたと思う。悲惨な状況をたくさん見てきたけれど、どうするこ

なり広島駅に向かつた。ホームだけが残つていた。

復帰した職場で「髪が次々に抜け落ちるんだ」と話す同僚と、「お互い頑張らにやあいけんぞ」と励まし合つた。その同僚もそれから1

月後に亡くなつた。

火活動に懸命だった。熱く防火用水に首を突つ込み、そのまま息絶える人も大勢いた。あまりに無惨な光景

だった。

1ムだけが残つてたとい

うが、60年を経た今でもある。

原爆被爆者の会では、当

時を思い出し、原爆の悲惨さや平和の尊さを皆さんに訴え続けている。

西大寺地域原爆被爆者の会が8月2～4日の3日間、邑久町公民館で「原爆と人間展」を開催しました。

会場には、広島・長崎の原爆関連パネルが掲げられ、訪れた人に戦争の悲惨さ、平和の尊さを訴えていました。



展示パネルが訪れた人に語り掛けます

長寿をお祝い

敬老祝金

平成17年中に誕生日を迎える88歳になる人に、長寿者褒賞金1万円を贈ります。対象者のお宅を市職員が訪問し、お祝いします。

△対象者 市内に引き続き1年以上住所を有し、平成17年9月1日現在で77歳の人と80歳以上の人

△訪問予定日 10月1・2日のいずれかの日

△お祝い金額

○77歳	5千円
○80～84歳	5千円
○85～99歳	7千円
○100歳以上	2万円

△訪問予定日 10月1・2日のいずれかの日

社会を明るくする標語

犯罪や非行のない明るい社会を目指し、法務省が毎年「社会を明るくする運動」を推進しています。

瀬戸内市実施委員会は市内の中学生に呼び掛け、標語を募集。1、205点の応募作の中から、次の標語が優秀作品に選ばされました。（敬称略）

最優秀

あいさつで 心の中に 花が咲く
その笑顔 言葉以上の あたたかさ
声かけは 非行を防ぐ 第一步

優秀

声かけて 心を開く 友達の輪
増やそうよ 笑顔を咲かす 思いやり

ならないで 見ざる聞かざる 言わざるに
まわりみて たくさんあるよ やさしい目

広げよう 優しい心と 優しい気持ち
考え方 自分が言った 言葉の重み

思いやり 心のゆとり 笑顔から
たすけあい それは身近な 家族から

やめようよ 見て見ぬふりも 悪いこと
やりがいを 見つけて進め その道を

地域の輪 みんなでつみとる 非行の芽
助け合う 心ぶれ合う 地域の輪

優しさと 厳しさ見極め 非行ゼロ
「だめだよ」と 言える気持ちを もちたいな

自分が言われていやなこと きっとあの子もいやなはず

非行の芽 摘めば芽生える 優しい心

（酒井 克昌 長船中2年）

（守時 愛里 長船中3年）

（石川 菜緒 長船中2年）

（鈴木 美紀 長船中1年）

（木下 恵里 長船中1年）

（高坂 実希 長船中1年）

（岡 茉里奈 長船中2年）

（玉造 佳奈 長船中3年）

（生内 麻友子 長船中3年）

（前島 和哉 長船中3年）

（大脇 伸介 長船中3年）

（稻荷 耕佑 長船中3年）

（石原 沙梨 長船中1年）

（石原 純平 長船中1年）

（長船中1年）

（長船中2年）

（長船中3年）

（長船中3年）